

平成 28 年 度 学 校 自 己 評 価 シ ー ト

1 学校教育方針

- (1) 地域に学び、知識と知恵を身につけ、地域と協働する創造的な人材を育てる
- (2) 学校と地域の活動の中で、自律の精神を養い、規範意識と自己統制力を育てる
- (3) 学校と地域の活動の中で、豊かな心を培い、敬愛と協調の態度を育てる

2 目指す学校像と本年度の重点目標

目指す学校像	本年度の重点目標
地域の学校	地域での学びをさらに充実させ、地域を支える人材を育成する
自ら学ぶ学校	自ら進んで学び、議論・提案できる力を育成する
心豊かな学校	共同的な学びの中で豊かな人間性を育てる

3 教育指針

人みな使命あり

4 学校自己評価結果【 A(4)…よくできた B(3)…できた C(2)…あまりできなかった D(1)…できなかった 】

評価項目		評価	A	B	C	D	評価と改善プラン	学校関係者評価
I	地域での学びをさらに充実させ、地域を支える人材を育成する							
	①総務部 地域の活動に自主的に参加し、そこで学んだことを活かした新しい企画等が提案できるようにする	3.2	5	11	1	0	新しい企画の提案ができなかった。自主的参加はよくできていたが、職員自身が地域について学ぶことも必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ・町づくり、地域創生、若い人を地方へ呼び戻す取り組みが必要である。高校を出て都市部へ出てしまうとその後地方へ帰ってこないのが現状。どうしたら良いか。大学など進学してからのその後の追跡で、同窓会名簿を利用などしてみてはどうか。 ・地域の求める物と学習内容のギャップがあるのではないか。 ・アウトドアスポーツ類型→スキーでのスポーツ推薦はある。アウトドアの専門学校はあるが、大学の学部としては無い。どう結びつけるか？生徒への情報提供が急務である。 ・学年が上がると学校評価の数値が上がっているのは教育の定着があるからではないか。
	②教務部 アウトドアスポーツ系の教育課程の充実と精選の行う	3.4	6	11	0	0	地域の求める生徒と、その生徒の地域での活用についてのギャップ。地域と共生できる教育課程の編成が必要。	
	③生徒指導部 地域行事に積極的に参加を通じて社会人として実践力を養う	3.5	9	8	0	0	多方面にわたって地域での活動を多く行った。今後も継続して地域づくりにつながる活動をしていきたい。	
	④進路指導部 就職者・希望者へのインターンシップを実施し、キャリア教育を推進する	3.2	6	9	2	0	充実したインターンシップを行い、進路実現に役立った。	
	⑤保健部 疾病予防、また早期発見に向けて、学年、家庭との連携を深める	3.2	3	14	0	0	保健だよりの発行により、保健指導を行ったが、インフルエンザ発症防止につながらなかった。更なる保健指導と家庭との連携が必要である。	
	⑥1年 地域協働のまちづくりや地域学入門を通じて、個々の役割を自覚し、個々の役割を責任をもってやり遂げる	3.1	4	11	2	0	自分の役割を自覚し、概ねそれぞれの責任を果たせた。班別で行動する際に、自分の役割を素早く理解させ、行動させることが今後の課題となる。	
	⑦2年 総合的な学習や地域探求を通して地域を学び、地域に対する興味・関心を持たせることで地域への貢献を図る	3.2	5	11	1	0	学習や体験を通して興味関心を高め、地域に貢献することができた。	
⑧3年 総合的な学習の時間、地域探求など、様々な活動体験で学んだことを発表の場で確認し、進路実現への糧となるよう指導する	3.5	9	8	0	0	意見を持つために知識や情報を得たり、1年次からの継続的な取り組みが必要である。プレゼン能力やコミ能力が向上したが、質問力の指導ができればよかった。		
II	自ら進んで学び、議論・提案できる力を育成する							
	①総務部 諸活動に参加し、その経験をまとめたうえで、さらなる課題を見つけ議論する能力を養う	3.0	3	11	3	0	自主的に新たな課題を見つけるという部分が足りなかった。	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会やフォーラムで生徒の様子を見ると、しっかり意見を持って発表することができている。地域の課題や改善策の提案をせっかくなしているのので、そこで終わらせないでほしい。その先につなげる。提案したアイデアを実現させてほしい。 ・ライバル校が増えてきている。(同じような類型が増)鳥取大学との連携などもっともっとアピールするべき。他校との差別化を図る必要がある。 ・卒業後の生徒がどれくらい帰ってきてくれるか。大学の地域学部へ行った生徒は帰ってきてくれるのではと期待している。アウトドアの生徒がどういう形で帰ってきてくれるか？ ・アウトドアスポーツ系の志望が減ってきているので、進路実現と直結した指導を期待する。やりたい仕事に結びつけた戦略(〇〇になるための入る！)
	②教務部 評価に関する教務規定の見直しと研修を実施する	2.5	2	6	8	1	教務規程の見直しがすすんでいない。卒業・進級単位数、保健室での扱い等。	
	③生徒指導部 班討議を学ぶリーダー研修会を積極的に活用し、生徒の自主性、自発性、自律性を養う	3.2	6	9	2	0	リーダー研修会における班討議(ワークショップ)は充実し、オープンハイスクールにおいても生徒主体に行動できるきっかけとなった。今後は研修会参加生徒以外での全クラスで班討議を実施できる体制を作っていくことが大切である。	
	④進路指導部 国公立大学のAO・推薦入試に進んでチャレンジし、自らの学びを伝える力を伸ばす	3.4	8	8	1	0	国公立合格受験 AO 推I 推II等の関係文書の共有化を試行した。	
	⑤保健部 予防と治療の大切さなど、疾病に対する正しい知識を身につけ、自らを大切にするという意識を持つ	3.0	3	12	2	0	検診等で指導が必要な生徒・健康に不安のある生徒への個別指導ができた。	
	⑥1年 授業を中心とした学習習慣を身につけさせることにより、基礎学力の向上を図る	3.0	4	10	3	0	授業は概ね落ち着いて受けることができた。朝学を毎週火(国語)、木(英語)曜日に実施することにより、家庭学習の習慣づけの動機づけとなった。継続して課題を与え、短時間でも家庭で机に向かう習慣を身につけることにより基礎学力の向上を図りたい。	
	⑦2年 進路意識を高める指導を行い、進路実現に向けて学力の向上を図る	3.1	5	9	3	0	進路意識を高めることはできたが、学習習慣の定着がまだ十分でないと感じる。	
⑧3年 知識を自分のものとし、SHRのスピーチなどで自分の意見を述べるとともに、他の意見を聞くコミュニケーション能力の育成に努める	3.4	7	10	0	0	意見を持つために知識や情報を得たり、1年次からの継続的な取り組みが必要である。プレゼン能力やコミ能力が向上したが、質問力の指導ができればよかった。		
III	共同的な学びの中で豊かな人間性を育てる							
	①総務部 諸活動に学校全体で取り組み、地域について学び、地域への理解と連帯を深める	3.3	8	6	3	0	学校全体の取り組みはよくできていたと思う。次のステップをどうするかを考えたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・村岡高校は頑張ってきた。県外からも生徒が来ている。経営戦略を考える。地域と共に考える。そのことを忘れないようにすることが大切である。 ・今、但馬内でも同じような類型が増えているのでどう差別化するか。次の一手をどうするか。追いつかれて追い越される。にならないように今何をしなければいけないかを焦点化する。 ・少人数の特典を考える。少人数の良さ、強みを考える。個々の生徒の伸びを検証してPRする。 ・アウトドアも地域イベントプロデュースなどアウトドアスポーツと単純に考えないでもよい。プレゼン力などアピールしてほしい。 ・まだまだPRが足りない。上手にPRすると良い。戦略的PRを。 ・地域と協働して動くことが定着してきている。地域も高校生に依存しすぎないこと。 ・振り返ってみる。先をみるのが大切。
	②教務部 総合的な学習の時間、地域探求でアクティブラーニング実践報告の場を広げる	3.2	5	10	2	0	地域での共同に伴う活動の多様性に職員数不足が課題。	
	③生徒指導部 生徒が積極的に参加する行事(学校祭)を効果的に実施し、成就感を体得するとともに協調性を養う	3.4	8	8	1	0	生徒会を中心に学校行事を主体的に取り組み大きな感動を生んでいる。さらに生徒1人1人が主体性と協調性を体得するような取り組みを進めていく。	
	④進路指導部 先輩から後輩へ伝えていく視点で進路体験記を書き、受け手も読んで自分の進路選択に生かす	3.0	4	9	4	0	今年度実施できなかった(気象警報)ので、「進路の手引き」を活用し伝える。	
	⑤保健部 教育環境の整備をはかるため、生徒・職員全体での清掃美化活動を徹底する	2.8	1	12	4	0	職員全体でよく気をつけていただいた。安全面においても気がついたことを早めに指摘していただいた。	
	⑥1年 HR活動や学校行事などに積極的に参加することにより、良好な人間関係の構築を図る	3.4	7	9	1	0	学校祭などの学校行事に積極的に参加しそれぞれの役割を果たす中で、生徒たちがコミュニケーションを取りながら良好な人間関係が構築できた。建設的な意見を言い合う環境を作り出すことで、さらに自主的な活動ができるようにしていきたい。	
	⑦2年 中堅学年としての自覚をもって、学校行事等では牽引役となれるような集団作りを行う	3.0	4	9	4	0	中心的な存在として、その役割を自覚できており、積極的に取り組んでいると感じる。	
⑧3年 各種学校行事を通じ、仲間と協力しながら創作する中で成就感や達成感を実感するとともに、後輩へ繋ぐ集団の形成を目指す	3.4	8	7	2	0	相互に助け合える仲間づくりができた学年であった。各行事や活動においては最高学年であるという良い意味でのプレッシャーを与えながら指導した。先輩として行動で後輩に村高生としてあるべき姿を見せることができた。		